

# めだかの学校だより

平成 29 年 11 月 1 日  
 第 98 号  
 学舎：周智郡森町一宮  
 「一宮総合センター」  
 事務局：静岡県磐田市  
 家田 529-20  
 TEL：0539-62-6691

## 校長訓話

第九十八回 校長 日比野雅彦

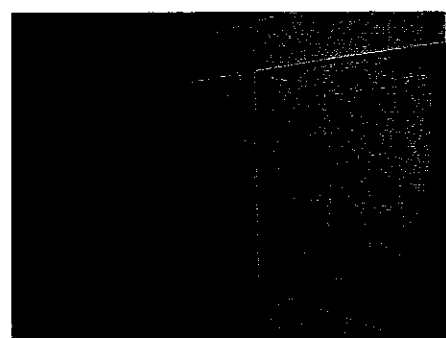
記者として昭和六十一年に中日新聞社に入りはや三十年余が過ぎました。松平春嶽公ゆかりの越前の地にて、記者としてのスタートを切りました。当時は一部に鉛の活字を使った印刷が残っていました。記者の現場も、原稿用紙にペンで書き込む時代です。一枚に五行です。書いては丸めて捨てる日々でした。今思うと、どれほどそれが役立ったことでしょうか。「書く」というとても単純な行動ではありますが、その前には必ず頭の中で文章を構成しています。書き出した時には、終わりの言葉まで決めていくこともしばしばでした。今はコピペという機能があります。消すのも一瞬です。確かに便利ではありますが、言葉の吟味する時間を奪ってしま

ました。分厚い広辞苑をめくり、記憶と付き合わせて伝えたいことにびつたりという言葉を探するのは、苦しいけれど楽しいひとときのはずなのです。こういう機会が奪われた今は、不幸としか言いようがありません。

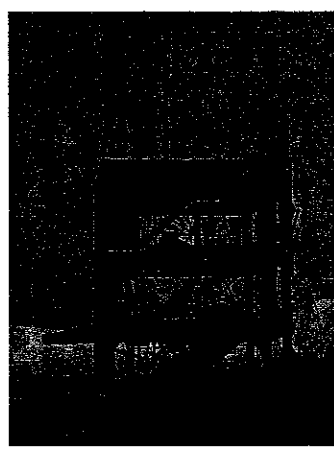
新聞を読む世帯は七割を切ったという統計もあります。ネット社会の影響だという分析もありますが、そうでしょうか。私は書かなくなったことが、大きな理由だと思っています。字へのこだわりがなくなり、紙への執着も消えたのではないのでしょうか。

さて、私の「めだかの学校」の原点は、愛知・足助での村松達雄メダカとの出会いでした。灯りのイベント「たんころりん」など足助で伝統を「創る」活動をしてきた衆との縁が、今につながっています。二度目の浜松勤務で生徒として何とかやっていける気がしていますが、まだまだ若輩です。温かい目で見守ってください。

① 東日本大震災で石巻日日新聞が出し続けた壁新聞。活字が被災者に寄り添った



② 津波が屋上を越えた宮城県南三陸町の防災庁舎。あなたは雪のこの風景にどんな言葉を送りますか



## めだかの学校伝言板

——第 98 回めだかの学校を開校するので出席しなさい。  
 校長／日比野雅彦  
 教頭／大場敬子  
 用務員／秋山勝則  
 給食係／大久保陽・村木謙弐・石野省三・中村やす代  
 牧野久子・大谷香代子・今村純子・山中幸子  
 加藤真知子・早川幸恵・尾上美智子  
 渡辺三ツ子(チーフ)  
 ※お手伝いできる人はぜひ早めにお出かけを！  
 <学舎>静岡県周智郡森町一宮「一宮総合センター」  
 TEL：0538-89-7730(開校日のみ)

開校日／平成 29 年 12 月 1 日(金) 6：20PMより  
 受付／大橋町代・鈴木亜繪美・斉藤昭(後見人)  
 25 期通年テーマ：『めだかの学校、四半世紀 次世代に何を為し、何を語る』 今回のテーマ：<めだか環境楽団「3つの楽章 うみ・やま・まち」から>  
 <時間割>  
 ●1 時間目 体育 芦川和美 先生(磐田市)  
 「サーファーから渚の守り人へ、そして…」  
 ●2 時間目 道徳 内田貴久 先生(春野町)  
 「気田川の環境保全から経営伝道士へ、そして…」  
 ●3 時間目 社会 内山ゆきゑ 先生(浜松市)  
 「キッズ環境劇団から、まちのにぎわいに、そして…」  
 ●給食の時間～えび芋ととろろと芋三昧～ 9：30 閉校

# めだかたち

## 第十五回全国まちづくり交流会 in 富山「女性(おんな)が変える!女性(おんな)で変わる!」に参加して

東海北陸道經由で片道およそ五時間かけて富山へ向かったのは、9月9日(土)の事だった。会場は、駅に近いホテルグランテラス富山。全国まちづくりのスタッフも発表者もすべて女性・女性の底力は、米騒動から富山型ディに至るまで創意工夫と実行力には女性のパワーを強く感じた。語り部の金澤敏子さんの題目「米騒動と富山のおかかたち」。主婦たちが米の安売りを求めて、米屋に押しかけた事をきっかけに騒動が起った。「米が買えない!ひもじい!」の声は、生存権をかけて女達の戦いでもあったと大正の米騒動から百年をふり返る。

分科会は、富山の福祉・農業・まちづくり・教育・観光と、女性の立場から熱い思いで発表された。交流会は、再会をなつかしむ姿があちこちで見られた。司会者の指名で代表の村松達雄さんからメダカ生の紹介とメダカの学校の歌声で盛り上がる。笑顔いっぱい仲間達の和やかな空気に包まれ、時の経つのも忘れて、来年は「くまもん」熊本での再会を約束して幕を閉じた。

翌朝NPO法人北陸青少年支援センターを見学する。農業を通じて、人生の道を照らしている施設「はぐれ雲」である。はぐれ雲主宰の川又さんの案内に耳を傾けた後、帰路に着く。富山の街を離れ、収穫の秋の穀倉地帯の散居のたたずまいを眺めながら、庄川の上流に向かい、世界遺

産の五箇山の合掌集落で一息ついた。古くからの日本の心の山村風景に心のふるさとを感じ富山県を後にした。

天ぷら油の燃料(WVO有害物質ゼロ)100%を車に積み込み給油しながらの快適なドライブであった。今回はメダカ生も女性の出演となった。ハンドル担当の大島たまよさんの安全運転に感謝し、お疲れさまでした。又、ひとつ仲間の輪が広がりました。(山中幸子メダカ)

### 奇遇な出会いの面白さ

最近とても不思議な出来事が続いています。ある会合で隣に居た女性が故伊藤茂男さんの息子さんのお奥様、敷地(磐田市)の松井智香さん、パラさんのメダカやリンデンバウム、つみくさの事を大変良く知っていました。彼女にばんぶきん2015年4月号で、小林社長の茂男さんを偲んだ記事を送った所、今度はめだか便り97号で小林社長が、「めだか春秋」で再び茂男さんを偲んで下さいました。

最近、浜松市北区引佐町伊平で町興しを始めた倉渕綾子さんに山野草研究家篠原準八先生の『足元の草が地域を元気にする』を、「てんてんゴー洪川」で購入して読んでいた所、つみくさの復活におおいに乗り気で、パラさんと茂男さんの奥さんに料理の指導をお願いしたいと言っています。

今度は8月21日「浜松21世紀クラブ」で長野県売木村村長が『思起こしについて』講演をしました。売木村はパラさんと茂男さん達が指導に行った村です。私も「こまどりの湯」に入り、山野草料理「こそう」になってきました。まだまだ不思議なことが起こりそうな予感がしています。(めだかの学校一期生 鳥山 剛メダカ)

### 豊岡東交流センター祭り

磐田市北部、敷地にある豊岡東交流センター(元東公民館)で11月26日(日)9時半から14時半まで、『豊岡東交流センター祭り』が開かれる。体育館では豊岡中学生徒による大太鼓に始まり、ブラックシアター、楽団演奏など会場を賑やかれます。屋内の展示場では、かまちよろうメダカのマンガ原画展、油絵、水彩画、各団体などの多くの作品が展示される。ロビーでは10時からバラ夫婦のコーヒーショップ「リンデンバウム」、昼には「リンデンバウム」の合唱つき。屋外では渡辺三ツ子メダカのカレーショップ「めだか亭」、鈴木正士メダカの手打ちそば「正士庵」、深澤明男メダカの「もちつき」。その他し鍋やお汁粉、えび芋の串揚げ、焼いたけなどたくさんのお食。旬の農産物次郎柿、えび芋、しいたけなどの販売も。田村進治メダカ夫婦も応援に。ぜひ小銭持参でお出かけを!『まっつてまっつ』とバラメダカ。問合せは豊岡東交流センター、0539-62-6691へ

### 使用済み切手でタイの象が救えます

公民館や交流センターなどで「この缶に使用済み切手を入れてください」の表示をよく見かけます。先日、春野町の尾上美智子メダカからたくさんのお使用済み切手をいただきました。私の分と合わせて静岡県ボランティア協会へ送りました。

ボランティア協会の担当吉永さんの話では使用済み切手を換金して、30年来交流のあるタイの象を救うための資金にしている、とのこと。象の住むタイ東北部のスリン県タクララン村は「象の村」として有名で、少数民族スワイ族が象と一緒に木材の運搬などで生計をたてていたが、森

林伐採や機械化などから仕事もなくなり、観光客を相手にバンコクなどに移住にいき、見せ物象など生活の糧を得ていたそうです。

ところが路上でのこと、交通渋滞がひんぱんに起きてそれも禁止となり、象の食糧さえも事欠くようになった。そんな窮状を知ったボランティア協会では、この使用済み切手の資金を活用して、タイで活動するNGOと連携して、象の好きな木の苗の購入と植林を応援している。

そんな資金となる『使用済み切手』、ぜひご協力を!。(事務局バラメダカ)

### 「人・ひと・ヒト……だより」

●横浜市の山根圭二メダカ。加藤真知子校長訓話。「まさに適任の校長先生が就任されたものよ、と感動している次第。一つ寂しいことは校長先生の写真がみたくい。それも全身写真がよい」と。朝起きたら正座して腹式呼吸を10回やるといい!とも。3日間続けた、とバラメダカ。

●美濃加茂市の長谷川政夫メダカ。そば屋のオヤジになって『そばを更に美味しく!』との思いで、江戸流を基本に改良に改良を加え、真日本流そば打ち技法を改良している、と。9月18日のソバの花コンサートには、袋井市の松本芳廣メダカがお手伝いに。「そばへのこだわりは凄いくけど、ちよつと丸くなったね」だって。(笑)

●掛川市(会社は浜松)のめだか一回生の山内秀彦元メダカ。10月30日に浜松市で開催の「第25回三遠南信サミットin遠州」の住民セッションの進行役で、住民ネットワークの代表世話人。行政・経済界の三遠南信サミットでは、パネルディスカッションのパネラーに。このサミット、平成5年から毎年開催されて今年で25年目。めだ

かの学校の開校と同じころ、ホントたくさん「めだか」が泳ぎ回っていました。今回のサミットには三遠南信地域で今も活躍中の水島加寿代メダカが出席。

●浜松市天竜区佐久間町の山田修平メダカ。都市部の皆さん、天竜区の地域振興策などについて関心あるかどうか知りたい。30年前の佐久間町総合計画画書を見ましたが、認識、対策がほとんど現在と同じで驚いた。浜松と合併して10年余となったが…。

●浜松市の中村やす代メダカ。歌が大好きで2つの合唱団に所属。9月13日にアクトホールで行われた『第5回みんなが歌おう会』で3曲×2ステージ、6曲。間違えずに歌えるか心配だった。だって。能天気やす代メダカ、笑顔でニッコリ、ハイOKでした。

●秋田県鹿角市の奈良務メダカ。鹿角市芸術文化協会の事務局長で、演劇を年1回公演ペースで楽しんでいる。今年のねんりんピックで百人一首のかるた競技会に参加。かるたの奥深さにふれた。来年の富山大会に出られるよう練習している。だって。

●磐田市の福井紀男元メダカ。袋井市のギャラリー喫茶「いこい」で10月15日まで個展を開催。その案内状の自画像、いい顔で描かれているが、アレ、これは？。右目下の骨にガンが見つかり16時間かかって手術した。その後もう一つのガンが見つかり、今は2つのガンと闘っている。いら、痛、痛い、だるい、疲れる体だが気持ちにはポジティブ指向で好きな絵を描いている。だって。来年の開校100回、25年記念、出席すると。

●浜松市の西川裕子メダカ。嬉しいお知らせと。来年1月10日の「笠井のたるま市」にて1日3回のステージを任せられた。オリジナルソング『笠井街道夢紡ぎ』多くの人の

に聞いていただける。芸名は嬉野遊宇。まさに「嬉しいの」だね。大谷洋介メダカには大変お世話になっている。感謝だ。だって。

●静岡市清水区の花井孝メダカ。鎌倉時代の高僧で静岡茶の祖とされる聖一國師のマンガ「聖一國師物語」を四か国で刊行したが、今度は同僧が宋から持ち帰ったと伝えられる『水磨様(すいまよう)』。木製の歯車をいくつも利用した仕掛けの製粉プラント。その図を解明。復元に取りかかっている。4分の一の模型もできて、支援者も増えて、実物の『水磨様』が姿を見せるのはそんな遠くないとか。

●今年度の衆議院議員選挙。メダカ生の前職3人が立候補。静岡七区の浜松市の城内実メダカ。地域の人を大事にして知名度抜群。まさに城内党でゆうゆう当選。磐田市の宮澤博行メダカ。「日本再建、まだまだやります」と、自民党推薦で静岡三区から立候補。当選。投票日の前日が結婚記念日、ダブル祝い事、良かったね。もうひとり三区から小山展弘メダカ。希望の党の推薦なしで無所属で立候補。いい戦いでしたが、比例復活もないので当選しませんでした。この小山メダカ、小林住弘メダカが発行人の月刊地域情報紙「ばんぶきん」に、地域の歴史を掘り起こした記事を10月号から連載している。城内メダカは、戦前の流行歌のSPレコードを収集して高齢者施設などへの慰問部隊をつくって訪問が夢と。

### 《新入生の紹介》

●磐田市の鈴木亜繪美メダカ。フリーのコピライター。東京にいた時は、劇団の台本や脚本なども書いたことがある。今は磐田国分寺祭りや各種イベントの裏方などの協力や、磐田文化振興会の理事も務めたりしている。

### ■訃報

●長野県天龍村の関福盛さん。関京子メダカのご主人。9月25日永眠いたしました。享年86歳。福盛さんは過疎と言われる地にあつて京子メダカや地域の人たちと、ゆべしやジュースなど加工食品をつくって奮闘。浜松との往来も多く、めだかの学校時には京子メダカのアッシーとしても活躍。ありがたう！「冥福をお祈り致します。健康に気を遣ったベジタリアンであったのに、5年前に難病のALS筋萎縮硬化症を発症し、長い闘病生活をしていました。車椅子に乗ってでもめだかの学校へ行きたい、とおっしゃっていたのに願ひ叶わず天国へ旅立ちました。冥福をお祈り致します。

xxxxx xxx

今回は紙面の都合でこれまで、みなさんの思いをFAXやハガキでご連絡ください。

### 《めだか春秋》

いま生きる私たちに大切な神事

少し前になるが、2017年6月3日三遠南信住民ネットワーク協議会の総会(於：てんてんゴーしぶ川 遠州世話人代表 山内秀彦めだか)で、「三遠南信の民俗芸能をベースにした魅力発信」をテーマに、住民同士がざっくばらんに語り合う時間をもちた。

三遠南信は、国内でもこれほど民俗芸能が集中している地域はないと言われる。今現在も伝統行事を続けている方(坂部冬まつり、東栄町の花まつり、西浦田楽、川名ひよんどり、寺野ひよんどり)と、興味を持って観に行く方と、その両者を繋げたいと考えている方などが、それぞれの立場から、現状や今後について発言。継承に向

てどんな工夫や取り組みをしているのか、また三遠南信で連携した情報発信方法がないか、などを意見交換した。

その中で、浜松学院大学の学生さんが、勝坂神楽(春野町)や川名のひよんどり(引佐町)の地元の人たちから舞や所作の指導を受けて、奉納神事の準備や本番に参加したことを発表してくれた。「日常生活と密接に関わっている民俗芸能に、昔から受け継がれている人々の思いや祈りを強く感じた」「一挙手一投足に神経を集中させた舞が、周囲の空気を張り詰めた感覚に驚いた」など体感したからこそ得られる感想。まさにコレが大事なのではないか、が根底にある。これは心さまよう現代人が、いま探求求めていることではないのかしら？「伝統芸能だから続かなくて」という考え方だけでなく、今、生きている私たちにこそ、必要だと感じる。

坂部の冬まつりを長年引っ張ってこられた関福盛さんが9月25日に亡くなられた。…というより、福盛さんはもともと神様で、本来の場所へ還られたのだと思う。人間世界にお立ち寄りになっていた間、私たちにいるんなことを教えて下さった。そう感じた人たちがまたこれから気持ちを寄せあい、次の世代へと伝えていく。頑張るのではなく想い続ける、そんな在り方こそが、未来継承のヒントになるように思う。

福盛さん、たくさんありがとうございました！(水島加寿代メダカ)

※お知らせ

めだか春秋はリレー形式で。文字数は19文字32行以内。第99回めだか春秋は、習志野市の市原実メダカ。お楽しみに。

# トピックス

## ■遠州森町発「町並みと蔵展」と「海野光弘木版画展」

「第25回町並みと蔵展」が、11月25(土)、26日(日)午前10時〜午後3時まで、森町、仲横町、新町の町並みと蔵を中心に行われる。25日は西光寺本堂で午後1時〜2時まで、「恕仲天閣禪師と森町」の講演がある。同時開催で「海野光弘木版画展」が、18日(土)〜26日(日)、午前10時〜午後3時まで、本町の旧松浦製茶で開催される。海野さんは1939年静岡市で生まれ、染色業をしながら木版画に取り組み、38歳の若さでスイス美術賞を受けたが、翌年39歳で逝去。観覧料は一般大人300円、学生以下無料。

## ■事務局だより

♪村の鎮守の神様の、今日は何でたいお祭り日、ピーピーヒヤララ、ピーヒヤララ…。10月のこの時期は五穀豊穡を感謝して、各地でお祭りが盛んに行われている。私のところでもやりました。屋台が家の前にきたので一緒に100mほど歩いたら、あとは疲れて家の中でテレビをみながらワッショイショイ。お祭りはいいですね「〇〇です。よろしくお願ひいます」。こちらのお祭り？は「いま何故か」と思いつつも大事な一票、投票してきました。その結果は…。

用務員北川金洋。池谷教頭仕事の都合でどうしても出席できず、田村進治メダカが代役を引き受けてくれた。今回のテーマは「ポラン小野田 何を為し、何を語る?」。97回は25期最初の授業のため、「建学の精神」を唱和する。給食はマツタケご飯とマツタケご飯のお土産つき。デザートは渡辺チーフの高校生のお孫さんが5時間かけて作ってくれた「羊ケーキ」。それから何だっけ?とにかく美味しくかったです。ハイ。

加藤校長の校長訓話。大学生の時にモンゴルに旅行に行き、果てしなく続く草原、真っ赤な夕焼け、満天の星空、暖かな遊牧民の人々、3日間馬に乗り走りつづけたことなど、モンゴルの大自然の中で体験した時の感動を、若さいっぱい語る。



25期最初の1時間1時間の特別授業。小野田全宏先生の、社会「ポランティア今昔物語」。掛川から磐田へ野菜を運ぶトラックの運転手から、静岡市の済生会病院の職員に。院長発想の、ポランティア協会立ち上げに参画。事務局長を引き受ける。40年間の多くのポランティア事業に関わりながら喜怒哀楽を語る。神戸阪神大震災の時、派遣した職員が1枚の写真撮らずに帰ってきたことに腹を立て厳しく叱りつけたが、その3日後カメラを2台持って現地に足を運んだが、その凄惨さに1枚の写真も撮れなかった。東北の大震災ではいち早くポランティアの受け入れ宿泊施設兼拠点センターの開設、熊本大地震では一

度会っただけの熊本の住職が宿泊、拠点施設として寺を貸してくれたなど、日頃から人との出会いや人脈の大切さと、多くの人の支援で出来たことの40数年間を語る。現在ポランティア協会の理事長。めだかの学校1回生。



私語飲食全て禁止の次期3役発表。校長日比野雅彦、教頭大場敏子、用務員秋山勝則。日比野校長用事で早退のため引継ぎ代役は石野省三。日比野校長、この8月の人事異動で名古屋本社から浜松へ戻ってきたばかり。大場教頭長く受付をやってくれていたのが今度には前に。秋山用務員は新人。12月1日の第98回めだかの学校が楽しみます。

第98回めだかの学校の職員会議を9月26日に学舎で開く。いつもの如く、ああでもない、こうでもない、と。テーマは環境に絞る「めだかの環境楽団」に。先生は海と山と街で。1時間目、体育「波にのった渚の守り人」芦川和美。2時間目、道徳「山の環境でどうぞ師」内田貴久。3時間目、社会「えがおの種まき人まちのにぎわいに」内山ゆき多。でしたが、個性的で活動が広範囲な3先生、骨格はそのままに伝言板のようにしました。開校100回記念の話も。「百人の先生の講義」の案も。会場は奥山方広寺から森町の小國神社に決定。10月21日に石野実行委員長、松本・村松副実行委員長、事務局榊原、伊藤、服部、中村で打ち合わせ。11月に小國神社と内容をすり合わせし、12月1日のめだかの学校で概略を説明します。

■第25期の受け付けをしています  
第25期は平成29年9月1日から平成30年8月31日までです。毎年度入校手続きが必要で、未提出の生徒には再度申込書を同封します。手続きがなされない生徒は名簿からはずれ自主退学となります。新しく入校を希望される方がいましたら事務局までご連絡ください。申込書と資料を送ります。

■今回も「めだかの学校だより」遅れてごめんなさい。  
いつもお手伝いいただいています石野省三メダカ、鈴木武史メダカ、伊藤英雄メダカ、田村進治メダカ、水島加寿代メダカ、まとめてくださる間瀬亮太メダカ、発送のお手伝い榊原明美さん、ありがとうございます。

■めだかの学校だよりの原稿を!  
次回の発行は、30年2月1日予定。締切りは、1月20日。みなさんの日頃の活動、イベントの開催など、情報を手紙かFAXで待っています。メールの方は、

「mabuchi-trd@yr.tnc.ne.jp」  
間瀬亮太090・5009・0986です。  
(メールの方は割付の関係もあるので一報を。)

■めだかの学校の事務局

〒438・0105 静岡県磐田市家田5  
29番地20 榊原幸雄方 TEL 05  
39・62・6691 (FAX同じ)  
※学舎「一宮総合センター」周智郡森町一  
宮3150。電話0538・89・77  
30 開校日の午後4時以降のみ使用可。  
携帯080・1612・9130

